

【12月号バナナの国で平泳ぎ】

< シミアツグ >

刺繍で有名な町シミアツグに行ってきました。エクアドル北部グアランダという町からバスでないと行けない場所です。途中整備されていない道を通り、車の揺れが激しさを増すにつれ血の気が引いていった記憶が残っています……。



↑(左)「買いすぎ…?」,(真ん中)「(え?そんなに…?)」の図

お店に着くと、残念なニュースを聞きました。その日は商品が少ないということでした。チリで行われる大きな展示会のため、商品の殆どを梱包してしまったとのことでした。少しでもいいから……なんて思いながら、協力隊の同僚たちと1時間半ぐらい買い物を楽しみました。僕自身の買い物は5分程で終わったのですが、女性陣がまだまだ満足されていないようだったので、その様子を見ながら男性陣で笑っていました。商品を手にとっては値段交渉に挑む様子が頼もしかったです。海外に行くのは、女性が多いと聞きますが、その理由をこの目で垣間見た気がしました。「かわいい刺繍があるから行く。理由はそれだけで十分。」旅の楽しみ方を勉強しました。

< 誕生祭 >

12月と言えば、クリスマス！南半球のエクアドルにいてもそれはそれは盛大に行われます。11月末から町中Xmasの準備で大変忙しくなるのですが、その様子と言ったら不思議で仕方がない……。北半球が冬のとき、ここは真夏なので日中は気温が30度を越え、歩けば汗が噴き出す始末……。そんな中クリスマスを迎えると、違和感が否めないわけです。

さて、ご存知の方も多いかと思いますがクリスマスはキリスト教の行事です。イエス・キリストが生まれた日であり、エクアドルはキリスト教を信仰する人が多いという理由から盛大にお祝いをします。つまりクリスマスとはクリスチャンにとって大切なイエス様の聖誕祭なのです。24日の夜に中南米では豚の丸焼きを食べる地域が多いらしいですが、うちは七面鳥を食べました。特別な晩餐会なのですが、そこはやはり家族が一堂に会して一緒に過ごす大切な時間です。去年よりも今年はエクアドルファミリーの一員になっている僕がいました。



僕めっちゃ黒い(笑)

< 9日間の祈り >

スペイン語で9番目という意味を表します。クリスマスまで9日間、親戚一同が集まり特別な祈りを捧げる期間のことです。このノバーナとクリスマスは一連の行事です。毎晩集まってキリスト教や聖書の言葉について家族で話し合います。僕の家族は日替わりで親族の家に行きノバーナをしました。大学時代や留学中に宗教について少し勉強したことがあり、普段は日本人に敬遠されがちな宗教行事ですが、興味をもって参加することができました。簡単な祈りから始まり、その日のテーマについて話し合います。その後参加者全員で輪になり、もう一度祈りを捧げてから最後に団らん会をします。会に参加したからには当然僕も話し合いに入らねばならず、様子見だった初日でノバーナ本格デビューを果たしました。「罪悪感とは何か」が初日のテーマで、スペイン語で意見を言うのには苦勞しました。周りの話を聞いていると、エクアドル人が日常で感じていることを聞くことが出来ました。練習に平気で遅れてくる選手の気持ちにほんの僅か近づけた気がしました？



宗教って生き方ですね。その地域や国の生活の根底にあるものです。だから、海外で他人を理解しようとする時に大切な役割を宗教は担っています。これを知らずして世界平和に辿り着けるでしょうか。←とある日のノバーナ。いつもより真剣な家族たち。

< 年越し >

今年はエクアドルが誇る4大世界遺産の1つ、クエンカで年越しをしました。日本と違いこの時期クエンカの街はほとんどお店が営業していません。観光客の姿もなく、日付が変わる直前までとても落ち着いた夜でした。2014年が終わりに差し掛かると、新年を迎えるためにどこからかたくさん人が出てきました。エクアドルの伝統では新年を祝うため人形を焼くそうです。街の至る所に人形が設置され、新年の幕開けとともに人形焼きが始まりました。

これが中南米の伝統行事なら、年末年始の地球温暖化の原因は間違いなくこの人形焼が原因です。消防士にとっては新年最初の仕事で最大の仕事なのかもしれません。

サイレンがあちこちで聞かれるようになってから、眠りにつき、元旦は昼から夜まで温泉に浸かり、のんびりと過ごしました。バタバタ働いてもものんびり過ごしても過ぎる時間に変わりはありません。しっかり羽を伸ばした分、汗を流して働きたいと思います。



←こんな立派な人形が、カウントダウンとともに…

一気に燃やされるという、厄払いを兼ねたエクアドル全土の伝統行事だそうです。→

